

## 子どもの感性を育てる教育について（その4）

—— シュタイナー幼稚園における「季節のサークル遊び」を中心として ——

菊池 誠子

### はじめに

シュタイナー幼稚園では「幼児は教えられることによってではなく、模倣することによって学ぶ」というR・シュタイナーの考え方にに基づき、子どもが自由に子どもらしく、生きるということに専心させることによって、子どもの内側に育っていくものを大切にするという教育方針をもっている。それは現代社会においてはもどかしいほどゆっくりの教育ではあるが、手本となる教師や環境への配慮によって、子どもはすこしずつ何が真実なのか、善なのか、美なのかという、世界の中の価値あるものに気づいていく感覚—感性—を育てているのである。そこで、「模倣する存在としての子ども」とは何か、またシュタイナー幼稚園では、このような考えを基に具体的にどのような遊びを提供するのか、ここではとくに筆者の英国留学中におけるシュタイナー幼稚園での観察実習の経験<sup>1)</sup>をふまえて、「季節のサークル遊び」をとりあげて考察したい。

### 1 模倣する存在としての子ども

R・シュタイナーによれば、幼児期すなわち生まれてから乳歯が永久歯に生えかわるまでの時期はもっとも重要な期間であるという。そしてこの時期に子どもの重要な身体器官が発達するので、子どもの感覚に働きかけることが重要であると述べている。子どもが感性を通して見たり知覚したりするものが、例えば耳を通して入ってくる音が発声・発音器官（声帯や舌など）を育てるというように肉体器官を形成する働きをしているということである。したがってこの時期には子どもの感覚にどのように働きかけるかが問題となる。ここで大切な役割を果たすの

が、人間の能力の一つである模倣という行動である。R・シュタイナーはアリストテレスのことばから引用して、この時期の子どもは「模倣する存在」であると述べている。

幼児は本質的に模倣する存在であり、周囲に身体的—宗教的に帰依する一個の心魂的感覚器官です。乳歯が永久歯に生え変わるまでは、子どもは自分の周囲にあるもののすべてを感覚をとおして受け入れ、自分の中で消化します。子どもは感覚をとおして周囲から身につけるものとともに、道徳を心魂的—精神的に身につけます。乳歯が永久歯に生え変わるころの子どもの中で、人生のもっとも重要な衝動すべてが準備されているのです<sup>2)</sup>。

子どもは全身・全霊をもって周囲のものを模倣するのである。したがって教師は子どもが感覚器官を通して身体器官を健全に育成できるように働きかけるものを子どもの周囲に正しい形でもたらさなければならぬし、自分自身が子どもの手本となるよう努力しなければならない。もしこれを誤ってこの時期に不適切な育て方をした場合、学齢期に達してからこれを埋め合わせるのは大変困難であるとシュタイナーは述べている。

乳歯が永久歯に生え変わってから性的に成熟するまでの期間は、それまでにもたらされた衝動に、人生が要求する方向を与え、その生命活動を導かねばなりません<sup>3)</sup>。

このためとくに幼稚園の教育では、あらゆる細部にわたる非常に詳細な教育学的・教授法的洞察が必要になる。シュタイナー幼稚園では、これらの考え方によって、一日のプログラムは勿論のこと、建物の窓の形、保育室の壁の色、光の量、遊具、おもちゃの素材、おやつ、遊び一つひとつに特別の配慮がなされている。特に

遊びにおいては、子どもの身体の活動意志に適ったものを正しい方法で行えるよう、子どもが喜びをもって模倣できるものを提供している。そしてそのような模倣活動は、内面に道徳的なもの、精神的なもの、芸術的なものを含んでいるのである。その一つが「季節のサークル遊び」である。

## 2 季節のサークル遊び

サークル遊び——Cricle Plays (英) は、ドイツ語ではライゲンとかジングシュピールと呼ばれ、日本語では輪舞とか歌唱遊戯と訳されているが、これらの言葉から受ける印象ほどには踊りや歌が主である活動ではないこと、また後に掲げる資料が英文であることから、ここではサークル遊び(輪になって遊ぶというほどの意味)という名称で考察を進めることとしたい。

この遊びは文字通り教師と子どもが円形に並び、たくさんの言葉から成る、統一的なテーマをもったいくつかの詩や歌をジェスチャー(身振り)や動き(歩く・スキップなど)を伴って行う遊びである。詩を語り、歌を歌うのは教師であるが、この遊びを何回も繰り返すうちに子どもは自然に少しずつ真似をしてジェスチャーをしたり、歌ったりするようになる。教師が特に促すようなことや、教え込んだりするようなことはない。模倣する子どもの側の捉え方によって、一人ひとりのジェスチャーが揃っていても、また誰が上手、下手ということもなく、まったく自由な雰囲気の中で子どもは自分なりに教師を模倣するのである。サークル遊びにはごく短いものからかなり長いものまでであるが、とくにテーマを四季や季節の祭りに置いているものが季節のサークル遊びである。初秋・収穫祭・晩秋・待降節・冬・晩冬・早春・春・晩春・初夏などその時期のテーマで組み立てられている遊びが2～3週間にわたって毎日行われる。遊びを通して四季の自然の様子やそこに息づく動物や植物の営み、人々の暮らしや仕事、気候や自然との関わりなどが生き生きと展開される。詩の言葉・リズム・歌の旋律・ジェスチャーが互いに響き合い子どもの感覚器官に働きかける

とき、子どもの身体器官を育てると同時に芸術的な感受性を刺激して芸術的な基盤を育てていると考えられる。

次に季節のサークル遊びを成り立たせているいくつかの点について述べたい。まず全体の構成とストーリー的な流れを見渡すために一例としてN・Fosterの創作による「早春のサークル遊び」<sup>9)</sup>を次にあげる。原文(英語)および楽譜は本文に続いて〈資料〉として掲げる。

### 早春のサークル遊び(構成と大意)

- ①詩(土の中に眠る小さな茶色の球根は、冬の王様がうなり声を上げて身動きひとつしなかったが、春がひそやかにやってくると頭を持ち上げ、茶色の服を脱ぎ捨てて、ベットから飛び起きた。)
- ②ナレーション  
(農場の池のほとりには小さな柳の木が裸んぼうで立っています。)
- ③歌(お眠り、柳の木。冬は長いし、畑も野原もまだ眠っている。こまどりもまだ歌わない。でもまもなく春が明るく陽気な花花ともにやって来るだろう。)
- ④詩(高い空の上は明るく輝き、べールをまとった雲の精たちが白い馬にまたがってやって来て、銀の袋をゆすると、中から雨の精が飛び出てきた。)
- ⑤歌(ぱらぱらと木のでっぺんに、お庭に、みんなの頭を濡らして雨つぶたちが落ちてくる。)
- ⑥詩(居心地のいい小さな家の床の上、ドアの後ろでかたつむりがまだ眠っている。ぱらぱらと雨つぶたちがお屋根をノックする。とんとん、起きなさい、かたつむり。かたつむりは冬のドアを開け、触覚で水たまりを確かめると、ゆっくりと滑り出た。でも、外はまだ少し寒かったのでまた引っ込んでしまった。)
- ⑦歌(⑤と同じ)
- ⑧詩(夜になると風が吹いて雲を追い払った。やがて丘の上にお日さまが昇ると、小なまるいふわふわしっぽと茶色の尖った耳

をもったうさぎが飛び回った。  
 そしてかすかな音を耳にすると、目を石炭のようにまっ黒にして、短いひげを振るわして、自分の穴に駆け込んだ。  
 そして農夫の家では農夫が目をさまし、お日様が昇るのを見ていた。それから何を見たと思う？)

- ⑨歌（春が来る。小鳥たち、藁と羽根で巣をつくれ！すみれも百合も水仙も春と一緒にやって来る。周りは全て美しく、川面はゆらめきふるえ、喜びが満ちる。）

⑩ナレーション

（農夫は種の袋を持って畑に出かけました。）

- ⑪歌（ハイホー、ハイホー、農夫が種を撒く。小鳥たちは歌い、小さな種たちが跳ねる。）

- ⑫詩（さあ、種は撒き終わった。大きく育てよう。

雨が降って、風が吹いて、お日様が照らす。大地が種を大きく育てる。）

この作品は5つの詩、5つの歌、そして短い2つのナレーションで構成されており、サークル遊びとしては長いほうに属するが原文を見ると分かる通り、どの詩も韻を踏んでいてそのリズムが心地好い推進力を持っていること、歌のペタトニックの音感が終止感を曖昧にするため流れを断ち切らないこと、そして時間の経過と共に登場する愛らしい動物たちの表情や変化する自然の様子が生き生きとした言葉で魅力的に綴られて入るのが印象的で子どもたちを飽きさせない内容となっている。

ここで季節のサークル遊びの特長について以下に項目を挙げて考察を進める。

1 円形

子どもたちと教師が円形状に並んで中心に向かって手をつないで立つとそこに一つの世界が出現する。それがこれから始まるファンタジックな世界であり、手を離してもその意識は残存する。この始まりは非常に大切である。そもそも円はどのように形作られるのか。シュタイナー幼稚園では一つの遊びから次の遊びに移っていくときに、教師が「次は〇〇をします。」という呼びかけをすることはなく、代わりに静かに

歌を歌う。サークルを作るときの歌はいつも決まっています。次のようなものである。

Let us Form a Ring<sup>5)</sup>

Let us Form a Ring

The image shows a musical score for the song 'Let us Form a Ring'. It consists of two staves of music in G major and 4/4 time. The melody is simple and repetitive, with lyrics written below the notes. The lyrics are: 'Let us form a ring, Danc-ing as we sing. Ring-a-ring-a-rei-a, Ring-a-ring-a-rei-a.'

教師がこの歌を歌い始めると子どもたちはひとり、ふたりと手をつないで円をつくるように歩き始め、みんながつながった後もしばらく歩きながらきれいな丸い円をつくり、新しい世界に入っていく準備をする。この間教師はこの歌を何度も何度も繰り返す。子どもの気持ちの準備がすっかりできたのを見計らって歌うのをやめると何の合図もなく季節のサークル遊びを始める。教師が静かに詩を語り始めると、子どもたちは自然に教師の声に耳を傾け、ジェスチャーを真似る。

円は通常時計回りに進むが、これは時間の経過を表して、人間が作った時計の時間ではなく宇宙や地球の巡り来る自然の時間である。子どもは円上を移動しながら時の流れを感じつつ、時には円の中心へ集まり（集中）、時には外側へ広がり（拡散）ながら四季の自然が織り成す様々な生命の営みを体験しながら調和やバランスの感覚を育てていくのである。

2 音楽的な要素

季節のサークル遊びには歌が必ず含まれている。しかしそれは子どもに音楽教育をする目的のためではない。教師は子どもに、このように歌いましょうとか、ここまでを先生のあとについて歌いましょう等の指導をしない。子どもが教師の歌を模倣するだけである。しかもメロディーや歌詞だけでなく歌い方も教師と同じようにやさしく、静かに歌う。そこでは他の子と揃えて歌おうとする意識すらなく知らず知らずのうちに口から歌が引き出されたというふうである。〈資料〉から分かるようにすべての歌がペタトニックの音階<sup>6)</sup>で出来ていて、大人の耳には

いくぶん奇妙でたいくつに聞こえるが、なんべんも繰り返し聞いていると、今入りこんでいる世界にはよくなじむメロディーであることが分かる。とくに曲中にしばしば現れる五度の音程は中間に長三度や短三度のような、性格を決定する音を持たないため、その独特なぼやけたような雰囲気（シュタイナーがいう「五度の気分」）が未だ現実社会に目覚めていない幼い子どもの魂にとって心を広げて周りの世界を受け入れることを容易にするのである。五度の広がり子どもの耳にはあらゆる音が入りこむ可能性を持った空間となる。もしこれら五つの歌がダイアトニックで作られているとしたら一つの曲が終わる度に世界が閉じて、全体の流れが止められてしまうであろう。この意味で歌のもつ音楽教育的な意図よりも全体の雰囲気づくりやサークル遊びの詩と詩をつないでいく潤滑剂的な果たしているものと思われる。しかしながらこの遊びが音楽教育的な意味を全く持たないわけではない。結果的に遊びの中で歌が全体に働きかけるのと同様に、全体が音楽の基礎的なものを育てていると考えられるからである。R・シュタイナーは「教育術」の中で芸術的感性の育成について次のように語っている。

人間はもともと本性として、世界と音楽的な関係を保とうとするように生まれており、その能力は3歳から4歳にかけてもっとも強く認められる。大人が小さな子どもと一緒に踊ったり体を動かすことによって、子どもの中に全体的な音楽要素の基礎ができ、この要素から個々の感覚や音楽を聞く耳や、形をとらえる目が生まれる<sup>7)</sup>。

ここで述べられているように、音楽的な印象を耳からだけではなく、ジェスチャーのような目に見える動きとして感覚に与えられるとそれはやがて音楽的な素質となって現れる。季節のサークル遊びはこのような素質を育てる力を秘めている。

### 3 詩とジェスチャー・動き

子どもは教師が語る詩や歌の中の詩に耳を傾け、ひとつひとつの言葉を感じながらジェスチャー（身振り）や動きを模倣する。ジェスチャーは

詩や歌を作っているたくさんの言葉に生き生きとした絵を与え、子どもの模倣の意欲を駆り立てる。また、子どもが世界で出会うすべてのものの内的な質と外的な質を結びつける重要な役割を果たす。詩の言葉が選別されたものであるように、歌が特別に考えられた音階でできているように、ジェスチャーや動きにも配慮が必要である。それは世界をよく観察し、ものごとの本質をしっかりと見抜いた上で考え、創作されるものでなければならない。同じ鳥でも木の枝を飛び回る小鳥と大空を羽ばたく鷺の動きが異なるように、土の中に眠る球根の発芽の瞬間、土の暖かさや空気の冷たさは、ジェスチャーを創作する人（教師）の自然観察力や感性豊かな体験に基づくものでなければならない。かたつむりがおそろおそろ触覚を伸ばしながら外に這い出す様子は早い春の寒さが感じられるような、また、うさぎの目を石炭のように真っ黒にさせたかすかな音が一瞬間こえたような、そんな静けさを体験できるようなジェスチャーが理想である。ただしジェスチャーが多すぎたり、細かすぎたり大げさすぎたりは避けなければならない。物事の本質を捉えた簡潔で、子どもを元気づけるような調和のとれた身振りが創造され、演じられなければならない。また詩の内容も雲と雨の、あるいは風と雲と太陽の関係、小鳥と巣の素材などファンタジックであるだけでなく真実に基づいたものであることが必要で、その中で生命あるものたちの存在が生き生きと表現されるとき子どもはこの遊びを通して喜びをもって世界を知っていくのである。

### 4 動きの両極性

シュタイナー学校では12年間にわたって行われる重要な教材としてオイリュトミーがある。幼稚園でも幼児のオイリュトミーが行われるがサークル遊びはオイリュトミーと共通する両極性の体験を子どもにもたらし。その一つが集中と拡散の動きである。限りなく円の中心に向かっていく力と反対に宇宙の果てまで広がっていく力が存在していて、それらの力がリズムを生み出す。呼吸のリズム、眠りと目覚めのリズム、四季のリズムなどを生み出す両極性は次

の様な動きで体験される。

- ・速度 早いー遅い，加速ー減速，動と静
- ・方向 上下，左右，前後，内外
- ・重さ 重いー軽い

季節のサークル遊びではこれら動きの両極性に加えて言葉がもたらす気分の両極性（嬉しいー悲しい等）や，演じるうえで集団か個人か（グループ全体で回るーひとりひとりが回る等）がある。これらの両極性が遊びの中でバランス良く扱われると子どもは楽しんで演じることができるし，反対にどちらか一方の曲に片寄り過ぎたり，一方から他方への移り変わりがあまりに頻繁すぎると混乱を招いてしまうことになる。調和的な両極性が遊びを効果的なものに行っているのである。

### 3 教師の役割

季節のサークル遊びを指導するシュタイナー幼稚園の教師にとって一番大切なことはシュタイナー教育の基盤となっているR・シュタイナーの人間学（人智学）を学び，子どもの本質を理解することである。そのうえで遊びを構成している詩や歌，ジェスチャー，動きなどの芸術的要素に習熟していなければならない。シュタイナー学校教員養成課程ではこれらに関わる講座を主要科目の一部として置いている。例えば，

- 1 Creative Writing（創造的詩作活動）
- 2 Storytelling
- 3 Singing
- 4 Flute (Penta Tonic)
- 5 Eurythmy（オイリュトミー）
- 6 Speech（言語造形）
- 7 Goethean natural science
- 8 Nature Observation<sup>8)</sup>

などである。

教師が遊びの中で詩をどのように語るかについて示唆を与えるのは2と6である。まず子音の質感を身体の動きと共に捉え，詩を語る時に一つひとつの言葉に絵としての質を与えること。このような語り方が単に子音をはっきり話すということよりもはるかに重要で，子どもの「聴く」感性に有効に働きかけるものと思われ

る。歌い方やペンタトニックについての理解は3や4で学ぶ。3では声楽的な発声法をではなく，人の声や声の（歌の）もたらしものについての理解を深めながら，とくにグレゴリオ聖歌やルネサンス時代の多声音楽の演習を行う。ここで必要とされる柔らかく，かるやかな歌い方はサークル遊びの中での教師の歌い方と共通点を持っていて，子どもが円の中に創られた世界に浸り，音楽が心地好いと感じる力に働きかけている。4ではペンタトニックの曲を演奏するためにつくられた柔らかい音のする木のリコーダーを用いて簡単な合奏をすることによって，音楽を楽しみながら「五度の気分」を体験し理解することができるものである。ジェスチャーについて学ぶことはできるのは2，7，8である。2ではストーリーそのもののもつ魅力，すなわち聞き手を話し手が造る世界に引き込むような話し方，そのための様々な方法を試みる。とくに話し手の個性や，聞き手の受け取り方の多様性，例えば感情をこめた話し方と静かに淡々と内面に向かって語りかけるような話し方，活発で大げさなジェスチャーを伴った語りときりげない語り等，演じ手になったり，聞き手になったりしてそれぞれの効果について話し合ったりするもので，サークル遊びでは主観的な感情移入を抑え，シンプルな，しかし偽ものではないジェスチャーであること，そして子どもの模倣の助けとなるような技術（形が音を誘い出すようにジェスチャーを言葉に少し先んじて行うようにする）が習得されなければならない。またそれらのジェスチャーが真実に基づいたものであるためには教師は普段から世界とそこに存在するものをよく観察することが必要で，7のゲーテの自然科学とくに植物の成長（変容）について発芽から開花，結実までの観察や，8の一年間にわたる木の観察は日頃何気無く見過ごしているものに新しい目を開かせ注意深い観察力を育て，四季のサークルを演じたり，創作したりする時の助けとなる。

教師はこれら学校で学んだことや経験をさらに深め，よく練習を積んで最上のものを子どもに提供しなければならない。また，演じる子ど

ものグループを事前によく把握しておくこと、そして何より教師自身がこの遊びを楽しんで演じることが大切である。また教師自身が詩や歌を創作して、自分の指導する子どもたちとオリジナルのサークル遊びが演じられることがもっとも効果的であると思われる。

### おわりに

子どもの感性を育てるためには、質のよい遊びの内容を提供したり、環境を整えたりすることも重要であるが、子どもをとりまく大人、すなわち子どもの両親や教師自身の感性を磨くことも、大切である。また、双方の子どもへの教育に対する考え方が一致していることも大切で、そのためには教師が子どもの両親の理解と協力を得られるよう努力し、自分自身も日常生活の中で、世界との関わりに関心を抱き、感性と創造力を高めるよう務めなければならない。それはなかなか容易なことではないだろうが、「季節のサークル遊び」のような遊びを通して子どもと共に歌い、動き、生きている自然の中へ入りこむ経験をすることは、時計に追われる時間に生きている大人にとっても貴重な贈り物となるはずである。

ここでとりあげたようなサークル遊びは、日本のシュタイナー幼稚園でもとりあげられ、さまざまな形で演じられているが、本稿でもとりあげたような、外国語で創作されたものを日本語に訳している場合は日本語のリズム感や、メロディーと言葉のイントネーションの関係が不自然にならぬよう十分に検討されなければならないだろう。遊びの効果を最大限に生かしながらどこまで改編が許されるのか、そして日本の四季の自然をテーマとした、美しい日本語のリズムや音感をもった、オリジナルの日本の「季節のサークル遊び」の創作と実践が今後の課題である。

### 注

- 1) 1997年9月～1998年6月 英国サセックス州 Emerson Collegeに留学、人智学の基礎を学ぶ
- 2) R・シュタイナー著 西川隆範訳「シュタイナー教育の実践」イザラ書房 p.94
- 3) 同上書 p.94
- 4) N・Forster著「Dancing as We Sing」Acorn Hill Waldolf Kindergarten and Nursery発行 p.31
- 5) N・Forster著「Let Us From A Ring」Acorn Hill Children's Center発行 p.30～32
- 6) 拙著「子どもの感性を育てる教育について（その2）」盛岡大学短期大学部紀要第五巻 参照
- 7) R・シュタイナー著 坂野雄二・落合幸子訳「教育術」みすず書房 p.15
- 8) ここに掲げた教科は英国 Emerson College のものである

### 参考文献

- ・R・シュタイナー著 西川隆範訳「シュタイナー教育の基本要素」イザラ書房
- ・E・M・グルネリウス著 高橋巖・高橋弘子訳「七歳までの人間教育」フレーベル館
- ・高橋弘子著「日本のシュタイナー幼稚園」水声社
- ・C・クーティク著 森章吾訳「遊びとファンタジー」水声社

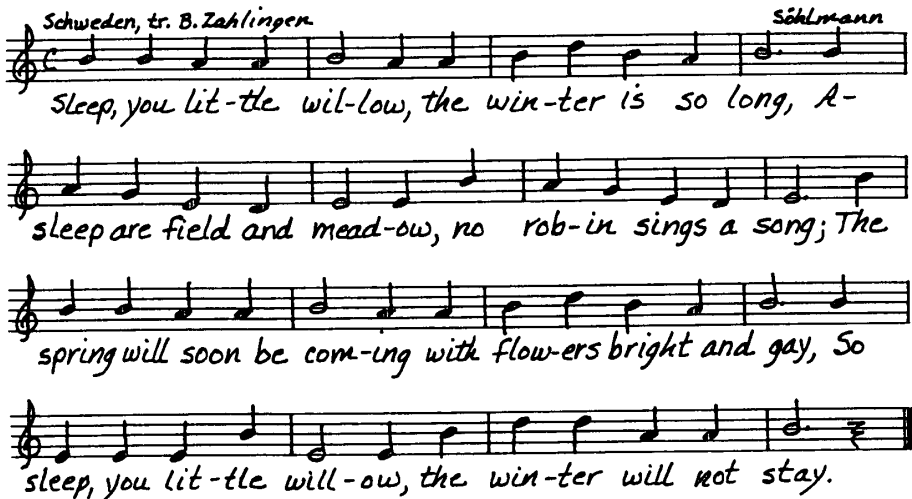
<資料>

### EARLY SPRING CIRCLE

- ① A little brown bulb lay asleep in the ground,  
In his little brown nightie he made not a sound.  
King Winter, he roared and he raged overhead,  
But the little bulb never stirred in his bed.  
But when Spring came tiptoeing over the lea  
With finger to lips, as soft as can be,  
The little brown bulb just lifted his head,  
Slipped off his nightie, and jumped out of bed!<sup>ws</sup>

- ② And on the farm beside the pond there stands a little willows tree,  
A willow tree, a willow tree, with branches bare for all to see.

③ *Schweden, tr. B. Zahlinger* *Schlmann*



The musical notation consists of four staves of music in a treble clef with a common time signature (C). The melody is simple and consists of quarter and eighth notes. The lyrics are written in a cursive script below the notes.

*Sleep, you lit-tle wil-low, the win-ter is so long, A-  
sleep are field and mead-ow, no rob-in sings a song; The  
spring will soon be com-ing with flow-ers bright and gay, So  
sleep, you lit-tle will-ow, the win-ter will not stay.*

- ④ High above the sky so bright  
Are riding on their horses white  
The cloud fairies, clothed in veils,  
On horses with white bushy tails.  
They shake their silv'ry sacks of rain.  
They shake, and shake, and shake again ;  
The rain fairies are jumping out  
From their silv'ry sacks of cloud.<sup>EMH</sup>

⑤

*E. Moore - Haas*

*Pit-ter, pat-ter, rain-drops, Fall-ing on the tree-tops,  
Fall-ing down on gar-den beds, Wet-ting all the child-ren's heads,  
Pit-ter, pat-ter, rain-drops, Fall-ing on the tree-tops.*

⑥

In his cozy little house on the floor  
The snail is still sleeping behind his door.  
Pitter, patter, raindrops, knock on his roof-top :  
Snail, wake up ! Knock, Knock, Knock ;  
Snail, wake up ! Knock, Knock, Knock.  
Snail opens his winter door—  
What has he been for ?  
He's not going out just yet ;  
But now his feelers reach the wet.  
Slowly, slowly, now he glides,  
On the garden bed he slides ;  
But since it's still a little cold  
He creeps into his earthly fold.<sup>EMH</sup>

⑦

(Repeat song, "Pritter Patter.")

⑧

But in the night the wind blew,  
The wind blew, the wind blew,  
In the night the wind blew—  
And chased the clouds away !<sup>NF</sup>


And on a hill close by the farm  
Just as the sun arose,  
The little rabbit on the hill was jumping up and down,  
His fluffy tail was round and white, his pointed ears were brown.  
But when he heard a tiny sound his eyes turned black as coal ;  
His little whiskers trembled, and he scuttled down his hole !

And in the farmhouse the farmer arose,  
And looked out at the rising sun ;  
And what do you think he saw ?



⑨

E. Lebert



1. Spring is com-ing, spring is com-ing, bird-ies build your nest!  
Weave to-geth-er straw and feath-er, do-ing each your best!

2. Spring is coming, spring is coming,  
Flowers are coming too,  
Pansies, lilies, daffodillies  
All are coming throught.

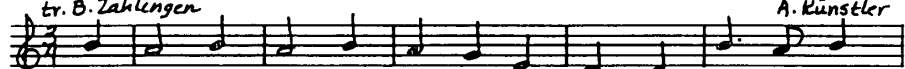
3. Spring is coming, spring is coming,  
All around is fair ;  
Shimmer, quiver, on the river  
Joy is ev'rywhere.

⑩

With his sack of seed to his fields he went. . .

⑪

tr. B. Zahlingen A. Künstler



Heigh-ho, heigh-ho, the farm-er doth sow, The birds are a-  
sing-ing, the lit-tle seeds spring-ing, Heigh-ho, heigh-ho, the  
farm-er doth sow.

⑫

Now we've sown our seed,  
Let us help them grow :

Rain flow  
Wind blow  
Sun glow--  
Help the earth the seed to grow.